

## 医療機器開発のための新たな人材育成を進めています 広島大学バイオデザインプログラムを 開講します

- 近年の医療現場を取り巻く環境の大きな変化に対応して、これまでの常識を打ち破るようなイノベーションによって、新たな市場を創造し、人々のライフスタイルを変えるようなサービスや商品の開発が求められています。
- 広島大学では、実臨床のニーズの洗い出しから、医療機器等の製造、国際的な市場での商取引に至るまでの一連の医療機器ビジネスを牽引することのできる人材の育成を目指して、インド・バイオデザインと連携し、令和5(2023)年度も、バイオデザインプログラムを開講いたします。

(コロナ禍の影響を踏まえて、科目によりオンラインでの受講が可能です。)



ひろしまバイオデザイン



SCHOOL OF INTERNATIONAL  
BIODESIGN



開講時期	令和5(2023)年4月から令和6(2024)年3月まで
場 所	広島大学大学院医系科学研究科〔広島市南区霞1-2-3〕
対 象	大学院生、社会人（科目等履修生の出願が別途必要です。）
出願期間	科目等履修生：令和5(2023)年2月28日まで (検定料9,800円、入学料28,200円、授業料14,800円／1単位が必要となります。手続きの詳細は別途ご案内します。)
開講科目	バイオデザイン概論Ⅰ・Ⅱ（オンライン） バイオデザイン演習Ⅰ・Ⅱ バイオデザイン実習
担当教員 (予定)	教員 花之内 健仁 松浦 康之 管 仕成 客員 川瀬 真紀（叡啓大学） 池野 文昭（スタンフォード大学） 藤井 太平（立命館大学）ほか



<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/news/69013>

運営・お問い合わせ

広島大学学術・社会連携室  
バイオデザイン部門（担当：溝隈）  
MAIL: biodesign@office.hiroshima-u.ac.jp  
TEL: 082-257-1992/1555



## 【開講予定科目の概要】

名 称	概 要	スケジュール	単位数
バイオデザイン概論 I・II	<p>実臨床の現場観察から、気付かれていないニーズを掘り起こし、ニーズ解決の新しい機会を見つけるための問題発見 解決プロセスを、①問題の洗い出し、②既存の解決法についての徹底的な調査、③革新的な解決法を導く手法、④社会的意義のある新たな価値の創出に至る思考方法から構成するカリキュラムで系統的かつ体験的に学ぶ。</p> <p>《令和4(2022)年度受講実績》 概論 I : 125名 (大学院生117名、社会人8名) 概論 II : 63名 (大学院生55名、社会人8名)</p>	<p>I : 4月～7月 II : 10月～1月 I・IIとも90分×8回 原則としてオンデマンド配信（一部ライブ配信・対面もあり）</p>	<p>I : 1単位 II : 1単位</p>
バイオデザイン演習 I	<p>多職種のチーム単位で客観的評価指標を共有し、医療現場のニーズを出発点として質の高いアイデアを残すプロセスを実践する。アイデアの認識をチームで共通化し、初期段階から事業化の視点も検証しながら解決策を開発する。</p> <p>《令和4(2022)年度受講実績》 社会人6名</p>	<p>8月28日(月) ～9月1日(金) 8:45～16:05 (5日間集中・対面形式)</p>	2単位
バイオデザイン演習 II	<p>多職種のチーム単位で客観的評価指標を共有し、医療現場の潜在的ニーズを具体化するプロセスを実践する。チームで共通化したアイデアに基づいて、市場性と事業化を検証しながらプロトタイプを製作する手法を習得する。</p> <p>《令和4(2022)年度受講実績》 社会人4名</p>	<p>11月13日(月) ～11月17日(金) 8:45～16:05 (5日間集中・対面形式)</p>	2単位
バイオデザイン実習	<p>&lt;対象者：原則として、フェローシップ等修了者&gt;</p> <p>医療現場で得られたバイオデザインプログラムの成果を応用するまでのプロセスを、チーム討論ならびに研究室でのプロトタイプ製作・検索エンジンを用いた市場調査を通じて、実践的なスキルとして習得する。</p> <p>《令和2(2020)年度受講実績》 社会人1名（2019フェロー）</p>	<p>通年 並行実施するフェローシップコースのカリキュラムに準拠し開講（オンライン・対面併用）</p>	2単位